

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A30	取組 名称	住まいと住まい方における温暖化防止活動に関する研究
研究代表者：	生命環境科学部（研究科）		教授・松原斎樹
研究担当者：	京都府立大学（松原斎樹，柴田祥江，宗田好史） 外部分担者・協力者（竹花由紀子氏、河田理恵子氏，木原浩貴氏ほか）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京都府地球温暖化防止活動推進センター（京都市，NPO 法人，）		
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>本研究は「手作りうち窓」などの DIY 的な省エネ対策，住まい方による省エネルギー行動などを普及することによる温暖化防止活動の推進を目的としている。その中で，府民に受け入れられやすいエコな暮らしの具体例を検討して，その効果を予測しつつ普及を進めることを意図している。1.ホームセンターで購入できる資材を利用した住まいの省エネ対策の実施と効果測定として手作り内窓等の設置を行い温湿度およびエネルギー消費量調査，アンケート・ヒアリング調査を行った。2.小学生を対象とした環境教育の効果測定を行い，参加者数の変化，選択式回答，自由記述の分析を行った。3.京町家居住者を対象とした暮らし方のヒアリング調査とエネルギー消費量調査を夏期・冬期に行った。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>ホームセンターで購入できる資材を利用した住まいの省エネ対策のうち，手作り内窓を設置した8軒の住宅では，温冷感・快適感とも全般的に向上する傾向が見られた。室温の上下分布が大きいことがわかり，上下温度差を小さくすることが課題として示唆された。断熱グッズの実際の使用感と効果について多くの住民の意見を集めることができた。</p> <p>小学生を対象とした環境教育の効果のアンケート調査には，京都府内151校，16000世帯以上が参加した。参加校・世帯数が毎年増加していること，よい方向への行動変化が約7割であることがわかった。自由記述の分析から，初めて参加した世帯の児童は「大変だった」「難しかった」で終始する回答が多く，継続世帯は「大変だったけど続けたい」という回答が多く見られ，継続意思が強いと思われた。</p> <p>京町家の調査からは，寝室を夏期に変更する住戸では冷房エネルギーが少ないこと，視覚的・聴覚的・嗅覚的な環境要因を肯定的に受け止めていることによって，温熱的な不快さが軽減されていること，町家に住み始めることで，省エネルギー的な意識が高まるという声も聞かれた。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
研究成果報告会 H27/3/20 府立大学稲盛記念会館 102 温暖化防止活動の関係者等約25名 平成27年度日本建築学会近畿支部研究発表会，にて発表予定。			
<b>【お問い合わせ先】</b>			
生命環境学部環境心理行動学（建築環境工学）研究室 教授：松原斎樹 Tel: 075-703-5426 E-mail: n_mats@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）

手作り内窓を設置講習会 京丹後市 (H26/10/11)



研究成果報告会 H27/3/20 府立大学稲盛記念会館 102

